

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3070103084 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人安原福祉会 | | |
| 事業所名 | あいの里 悠々1階 みふね | | |
| 所在地 | 和歌山県和歌山市松原115番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年5月16日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年8月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3070103084-00&PrefCd=30&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成28年6月30日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは地域に開けた施設、地域と共に支えあう施設を目標としています。地域住民に安心して生活できる憩いの場として理解して頂く事ができるよう民生委員・地域自治会長や慰問等の各行事にも地域の方に積極的に参加していただけるよう地域との関わりを重要視しています。法人の理念「愛・信愛・笑顔」を念頭に職員間で入居者の情報を共有し入居者の思いを探り入居者一人一人が安心し、ストレスや不安等を抱えることなく、入居者の方を家族・職員と共に支え安心して生活できるよう支援しています。終末ケアを希望される場合については、本人または家族の意向確認を行った上で、家族・主治医・医療機関・事業所職員等で最後まで、その人らしく幸せな生活が送れるよう相互に支えあいながら支え笑顔の絶えない施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは大きな池と山々が見渡せる場所にあり、窓からは桜や紅葉、渡り鳥も姿を見せ、玄関から庭にかけては梅や栗、柿、みかん等の木々が植えられ利用者と共に収穫を楽しみ、季節を肌で感じながら生活しています。神社などの地域行事への参加や地域の店舗での買い物、法人と共に地域の方を招いて行う秋祭りなど、地域を意識した取り組みを通して繋がりを深めています。また家族との交流を大切にしており、ユニット毎に家族会を開催し「認知症の理解」に向けた研修会や毎日の生活の様子をDVDで流し見ってもらうなど、家族との信頼関係が深まる中で新しい利用者の情報が得られる等、有意義な会になっています。看取りの支援にも取り組んでおり、家族の希望を聞きながら最期までその人らしく安心して生活出来るように医療との連携を図り、家族の協力も得ながら支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念をミーティング時などに再確認し、職員一人一人が常に念頭に置き、高齢者支援に対する職員の目的意識の向上とケアの実践に繋げている。 | 利用者と一緒に考えられたユニット毎の理念はフローに掲示され、理念を意識しながら笑顔を大切に共に生活を楽しみ穏やかに過ごせるよう日々のケアにあたっています。月1回のケア会議の中で振り返り確認しながら見直しも考えています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 和歌山国体の花の寄せ植えに施設で参加したり散歩や買い物に行き顔なじみになり、近くの神社の餅まきの参加や、高校のチュールアップフェア等の行事に参加し、地域の方と交流している。 | 神社の餅まきやカラオケ大会、小学校の運動会や作品展示会等地域の行事に参加しています。法人の秋祭りには地域の方の参加も多く、また野菜の差し入れが届いたり、芋掘りの招待を受けています。利用者と一緒に小学生の登下校の見守り隊をしたり、利用しているスーパーの方とも顔馴染みの関係を築いています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 開催する介護教室にて認知症介護の理解を深めている。また秋祭りを毎年行い地域の方にも参加していただける様にしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を2ヶ月に1回行い、安原地区自治会長、民生委員、地域包括センター職員、利用者の家族さんに参加していただき、ケアの実践報告や検討事項について意見交換を行っている。 | 会議は家族代表や民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員の参加の下2ヶ月に1回開催しています。行事や状況報告、感染症の発生と対策、終末期ケアの取り組みなどの報告を行い意見交換しています。地域の抱える高齢者の課題や活動についても話し合い見守り活動にも協力しています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | こちらから市町村へ相談、分からない事があれば積極的に聞きに行く事がある。 | 市の担当者とは良好な関係を築いており、介護保険制度等について分からないことがあれば市に出向き気軽に相談しています。市からのファックスは日々の支援に活かし、研修案内が届いた時は内容に応じて参加しています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 認知症高齢者の精神的ストレス等を研修で学んだ事を共有し、日々ケアの実践の際も声掛け一つでも拘束に繋がる事がある、ミーティング等で職員間で話し合い注意し合いながら支援している。玄関にチャイムを付け安全に配慮行っている。 | 身体拘束については外部研修に参加した職員がホームで発表する事で周知し、法人全体で廃止に向けて取り組んでいます。利用者の行動を止めることなく一緒に付き添い、玄関は施錠せずユニット間の扉には見守りの為の鈴を付け、職員間で声かけしながら安全に付き添い自由に行き来できるようにしています。 | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部で研修を受けた職員が職場内研修で発表を行い全職員が虐待防止について学ぶことができ、処遇会議等でも話し合う機会を設けている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 入居者に成年後見人制度を利用している方がおり、ケースにおいて担当者と話す機会を持っている。そうする事により管理者、職員等の理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 必ず事前に入居決定者及び家族、居宅介護支援専門員と話し合い施設を見学、入説明を実施し理解していただき入所している。改正時等には連絡を取り、再度説明することでご理解いただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会時や家族会、又電話等で常に状態を報告し、実践しているケアについても説明し理解を得ることで信頼関係の構築に努め、入居者の方を家族・職員で支えることを念頭に置き、顔なじみの関係になることで不安や悩みも話しやすい雰囲気作り等工夫している。 | 面会時や年数回の家族会、面会の少ない家族には電話やメールのやりとりの中で意見や要望を聞いています。家族会では日々の様子をホームビデオを見てもらうことでホームの取り組みを知ってもらい家族の安心に繋がっています。また意見を言いやすい雰囲気作りに努め、小さな要望にも添えるよう心がけています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日のミーティング時等、認知症介護に対しての不安や家族からの意見・要望等、職員間で常に情報を共有し意見をまとめ、上司に直ぐ報告し幹部出席の全体会議に取り上げ話し合い解決している。 | 管理者は職員間のコミュニケーションを大切に意見を言いやすい雰囲気作りに努め、日々のケアの中で意見や提案に耳を傾けています。月1回のフロア会議や全体会議の中で意見を出し合い食品管理や美化などの担当者からの発信や提案なども出され実践に繋がっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 幹部が各ユニットを毎日周り現場を見たり職員と話をする機会を持ち、又処遇会議等でも個々の考えていることや思いを聞くことで状況の把握に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的に内部研修開き入居者の方のQOL向上に取り組むと同時に職員個々の力量を把握している。又、外部研修においても多くの職員が受講し内部研修にて全職員に報告会を行っている。 | | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 和歌山認知症支援協会の研修や外部研修等へ参加することで同業者との交流を持ち情報・意見交換を行い、自施設でのサービスの質の向上に役立っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の申込み時に運営方針について説明し施設を見学、質問や要望を受けながら本人が安心して入居できる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人・家族の今の状況を把握できるように入居時に困っていることや要望等を聞いている。入居後においても常に入居者の状態を伝えることで不安を取り除けるように支援し信頼関係構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前訪問時や入居時に本人・家族の要望を理解し、その時必要なサービスを提供できるように支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の方は人生の先輩であることを常に念頭に置き、教えていただく姿勢を忘れずに関わっている。生活する上での知恵や人生観等日々身を持って教えていただき職員と相互に支え合う関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者個々の生活歴、入所に至る経緯と事情があり、本人・家族にあった関係が作れるように支援している。又、家族の方が施設に訪問しやすい雰囲気を作り、入居者と家族絆を大切にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の面会時は、共に支えているという意識を持ってもらうため、職員より積極的にコミュニケーションを図り、些細なことでも報告し互いに情報を共有している。又、家族は勿論、知人や友人面会しやすいような雰囲気作りにも努めている。 | 近所の方や兄弟、友人等が面会に来られた時は居室やフロアに案内し、お茶を出してゆっくり過ごしてもらっています。編み物教室をしていた自宅に戻ったり、家族と一緒に墓参りや法事に行く時は準備などを支援し、状況によっては送迎することもあります。釣りをしていた海を見に行くことや自宅周辺にドライブに出かけています。 | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の様子からうかがえる個々の人間関係を大切に、孤立する入居者がいないよう、職員が仲介に入り入居者同士の関わりが増えるよう支援してる。又、入居者同士が助け合える機会が増えるような雰囲気作りをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても入居者の居場所等について支援をしている。退所された家族から他の入居者を紹介していただくこともあり、支援と相談に取り組んでいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | グループホームは自宅の延長と考え本人の望む暮らしが送れるよう日々の関わりや言動から入居者の思いを探り、職員一人ひとりが常に入居者本位の意識を持ち、職員間で情報を共有し思いの把握に努めている。 | 入居前に家族にアセスメントシートに生活歴や暮らし方、本人や家族の思いや意向を記入してもらい意向の把握に繋げています。入居後は身体状況を把握し日常生活の中で本人の発した言葉やしぐさ、家族からの情報をもとに職員全員が思いの把握に向けて検討し話し合っています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居者の生活歴やサービス利用の経緯について本人や家族、担当の介護支援専門員から情報収集し、面会時等家族から常に情報収集行うことで施設での暮らしがより良いものになるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 不在の職員も申し送りで入居者一人ひとりの日々の様子を確認し、常に情報を職員間で共有し入居者一人ひとりのケアの実践に繋げている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者の望んでいること、必要としていることを日々の様子や状態、コミュニケーションや関わりの中から見出し、面会時や電話等で家族と情報を共有、意向を聞き状態の変化に合わせた介護計画書の作成に繋げている。 | 入居時は本人や家族の思いや意向を基に1か月後にサービス担当者会議を開催し職員全員で話し合い介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い6ヶ月毎に見直しています。介護認定の更新時や状況の変化があればその都度見直し必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れ介護計画に反映させています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 細部まで目を配り特に変化したことを記録に残すことで全職員で情報を共有、また要介護認定の変更時や入退院時等入居者のニーズが変化してきたときに見直しを行っている。 | | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 法人運営事業でデイサービス・小規模多機能があり、そこでグループホームの入居を待たれている方も多いので法人内で連携を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のスーパー等への買い物、行事の参加、訪問利用等を利用して常に地域住民と共に支え合っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に本人・家族の希望を尋ね施設の協力医か以前のかかりつけ医の継続かを決めていただき対応行っている。受診の際は家族に報告し職員が付き添い、日々の状態を伝えし対応している。 | 以前から継続のかかりつけ医や協力医の往診は其々月2回あり、変化があれば随時往診を受けています。歯科や眼科などの専門医は必要に応じて往診があり、家族には結果を報告し、状況に応じて家族が立ち会ってもらっています。訪問看護師の健康管理が週1回あり、医師との連携が図られています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護ステーションの訪問にて1週間の入居者の状態を細かく報告、健康管理・医療面でのアドバイス等を受けている。訪問外でも特変があった場合は連絡をとり、Dr・看護師・職員で連携し報告・連絡・相談を密に行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院には入居者の日常の状態についてすぐに病院に報告し、早期に退院できるよう病院・家族・主治医等とも連絡を取り合い積極的に話し合える機会を設けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | チームで常に情報を共有し医師や看護師に報告、対応の連携を常に行い取り組んでいる。終末期を当施設で望まれる家族が多いことは信頼関係があるからこそだと受け止め終末ケアの方針をお話しし、主治医を経て家族の意向を確認、書面にて記録を残し状態の変化に応じ常に意向を聞き最期までより良い生活が送れるよう話し合い取り組んでいる。 | 入居時に看取り支援について大まかな説明をしています。状況が変化した際は意向を再確認し、看取り指針に沿ってホームで出来ることや出来ないことの説明を医師が行っています。家族が面会を増やしたり泊まってもらいながら家族と一緒に悔いが残らないよう支援に取り組んでいます。職員は外部研修を受講し内部研修で伝達する等学ぶ機会を持っています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 外部研修にて救命救急法の講習を受講し対応方法を学んでいる。緊急時の連絡方法・対応方法についてはマニュアル化し掲示することで常に確認・共有できるようにしている。 | | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に消防訓練を実施し避難方法や消化器の場所の確認を行っている。1年に2回消防署の協力を得て入居者・職員・地域住民が参加し消防訓練を実施、消化器の使い方等教わっている。消防器具も定期的に業者に点検してもらっている。 | 避難訓練は年2回行い内1回は消防署の立ち会いの下、昼間を想定して行い、スプリンクラー等の器具の点検も年2回受けています。訓練では通報や避難誘導、消火器の使用方法等を利用者と一緒にいき、消防署のアドバイスを受けています。また運営推進会議で地域に呼びかけ消防団の協力もあり、災害に備えて備蓄を準備しています。 | 昼間を想定した訓練のみとなっていますが、職員体制の少ない夜間を想定した訓練を試みられる事を期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者の方を人生の先輩として捉え、どんな場面においても相手の立場に立ち考えることで人格を尊重し誇りを損ねないよう注意している。 | 接遇マナー研修に参加し内部研修では質疑応答を行いながら話し合いがなされています。不適切な対応がある場合はその都度職員間で注意し合っています。信頼関係を築きながら方言を交え一人ひとりに合わせた声かけや対応に努めプライバシーを損ねないケアを心がけています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 些細なことにも個々に対応し、職員と信頼関係を築くことで本音を引き出せるよう努めている。意思表示が困難な方については表情から読み取ったり、スキンシップで思いを汲み取るよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々の体調や気分常に配慮し、一人ひとりの日々の生活リズムを把握することで個々のペースに合わせて本人らしい暮らしが送れるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2か月に1回訪問理美容を利用し整髪してもらっている。また、その時々合った服と一緒に選んだり、いつでもおしゃれが楽しめるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の方と一緒にメニューを考えるとところから食事作り、配膳、後片付けまで一人ひとりの残存能力を活かし行っている。職員と同じテーブルを囲み、天気の良い日には庭での食事や庭にできた果物の収穫を行い季節を感じられるような食事を提供している。 | 冷蔵庫にある食材を見ながら献立を考え、週1～2回は利用者と一緒に買い物に出かけ、準備や盛り付け、後片付け等、出来ることを一緒に行っています。おやつ作りや季節に合わせて流しそうめんやバーベキュー、鍋料理をしたり、外食にも出かけ食事を楽しむことができるよう支援しています。漬物や梅ジュースなども利用者と一緒に作っています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は入居者の好きな物を取り入れながら栄養バランスに配慮した献立となっている。水分についても一人ひとりの好みに合わせ、摂取量をチェックし少ない方には食事内等様々な形で補給できるよう工夫している。 | | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事前に口腔体操、毎食後に口腔ケア、就寝前に義歯の洗浄を行っている。一人ひとりの状態により家族の同意のもと訪問歯科受診対応を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンをチェック表を使い時間等のパターンを把握し、入居者一人ひとりに合わせ、トイレで排泄してもらえるよう対応を行っている。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援が必要な方は行動やサインを見ながら声かけし早い目のトイレ誘導をすることで失敗が少なくなり布の下着等に改善した方もいます。日々職員間で支援の方法を検討し、アイデアを出し合いながら自立に向けた支援を行っています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事内容を工夫したり水分を多くとっていただけよう支援している。体操や散歩等の活動を増やすことで便秘予防に繋がるよう取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者一人ひとり希望に合わせた入浴方法をとり、決まった日や時間ではなく気持ち良く安心して入浴していただけるよう工夫している。 | 入浴は基本的に週3回、午前と午後に分けて支援していますが、希望があれば毎日の入浴や拒否傾向のある方は入りやすい夜間にも対応しています。新たにリフトを設置したこともあり重度の利用者も利用することで安全に湯船に入ることができています。季節のゆず湯や入浴剤を使用したり、窓からの景色を見ながら入浴を楽しめるよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間の安眠に繋がるよう日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。血圧値等その他体調に変化があるときは臥床し休息していただける対応を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居時に服用している薬の説明書を提供してもらい、薬の目的・副作用・用法・用量について全職員が理解できるように努めている。常に利用者の変化に目をとめ、その都度Drと相談しながら対応を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や日々のコミュニケーションから得意なこと、楽しみごとを探り、日常生活に取り入れることでそれぞれが充実した生活を送ることができるよう支援している。また、ドライブや外出、散歩等で気分転換と同時に四季を感じてもらえるよう工夫している。 | | |

あいの里悠々 1階みふね

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 入居者の方の希望に添い職員が付き添い対応を行っている。一人ひとりの生活歴からも本人の内に秘めた希望を探り、気分転換かつ楽しみになるよう支援している。 | 散歩はほぼ日課になっており、ゴミ捨てやテラスの野菜の世話、庭の草引きや季節の果物の収穫なども利用者と一緒に行っています。またドライブに出かけたり、気候の良い時期には花見や紅葉を見に出かけるなど外出の機会を多く作るように努めています。家族と一緒に外出する方もいます。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には施設で管理し、買い物等の同行の際に立替えにて行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙は個々の要望があれば対応できる体制にある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 庭の花や木々、また外の景色をみたり施設内に花を生けたり、実を収穫し食事に提供することで、季節感を出している。また、行事の写真等掲示したり食事作りの匂いや音など家庭的な雰囲気を感じてもらえるよう工夫している。 | フロアには行事の写真や季節の飾りつけを行い、庭の花が活けられたり、大きな掃き出し窓からは蓮が群生する池や山々の景色を見渡すことができます。フロアは明るいく広々とした空間になっており、ゆっくり寛げるソファを置き思い思いに過ごせるようにしています。掃除は利用者と一緒にを行い、温度や湿度に気を配り、居心地の良い空間になるよう配慮しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのソファ、玄関ベンチ等それぞれの入居者が自由に行き来でき、本人が落ち着ける場所を確保して過ごしていただけるようにしている。中庭のベンチやベランダの椅等も利用し気分転換を図っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室前に本人の写真や飾り、長年使われていた家具や昔の写真等持ってきていただいたり安心できる環境を常に家族や職員と相談、工夫し行っている。 | 居室には洗面所やトイレ、クローゼット、ベッドが備え付けになっており、希望や習慣に合わせて畳を使用することもできます。利用者には使い慣れたソファやテーブル、テレビ、趣味の編み物の道具や本、大切な位牌、家族の写真などを飾り、家族と一緒に居心地の良い空間になるよう配置を考えています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室前に表札、写真を飾ることで本人が安心して使用でき、トイレ等貼り紙をしてわかりやすく工夫している。 | | |